

令和4年3月 23 日
兵庫県立西宮甲山高等学校
校 長 早 川 千 也

第3学期終業式 式辞

生徒の皆さんおはようございます。

令和3年度3学期最後の日です。令和3年度も令和2年度に引き続き新型コロナウイルスに翻弄されましたね。いろいろと不自由な思いをすることも多かったですね。そんな中、生徒の皆さんと先生方の力で文化祭や体育大会などは実施でき、2年生の皆さんは修学旅行にも行くことができましたね。この先も、まだコロナはどうなるかわかりませんが、引き続き感染に気を付けて、学習や部活動、日々の活動に励みましょう。

ところで皆さん、この曲を聞いたことはありますか。

♪(《展覧会の絵》より〈プロムナード〉ムソルグスキー)♪

これは、ロシアのモデスト・ムソルグスキーという作曲家の《展覧会の絵》という組曲の有名な一節です。組曲というのはいくつかの楽曲を組み合わせで並べたものです。今聞いたのは《展覧会の絵》の中の〈プロムナード〉の部分です。《展覧会の絵》にはまだ、有名な曲があります。それが、次のものです。

♪(《展覧会の絵》より〈キエフの大門〉ムソルグスキー)♪

多くの人が聞いたことがありますよね、テレビの「ナニコレ珍百景」というバラエティー番組の中で使われているなどしていますね。《展覧会の絵》の中の〈キエフの大門〉という曲の一部です。キエフというと、今、毎日ニュースになっているウクライナの首都ですね。キエフの大門とは、(キエフの大門(黄金の門)の写真)このようなところです。約1000年前の1037年に作られたものです。1240年モンゴル帝国によって破壊され廃墟になっていましたが、1982年に廃墟の部分を残しながら復元されました。キエフは6世紀から栄えた歴史のある都市で、日本では同じく歴史のある京都市と姉妹都市提携を結んでいます。

ウクライナは今、ロシアの侵攻を受け、多くの人が亡くなり、多くの建物が攻撃を受けて破壊されています。令和4年3月23日の今日の時点で、キエフの中心まではロシア軍が侵攻していませんが、砲撃を受けて歴史的な建物の被害が出ているそうです。キエフの大門は被害がないようですが、心配です。

戦争とは恐ろしいもので、人の命、人々の生活、住むところ、歴史ある建物、いろいろなものが奪われ、壊されていきます。

私は戦争を経験したことはありませんが、私の両親からは時折、戦争のことを聞きました。夜中に空襲警報が鳴ると家の前の通りの突き当りにあった防空壕に逃げ込んで隠れる話、焼夷弾が上空で破裂して中の燃料や破片が地面にバラバラバラっと落ちる音の恐怖の話などです。焼夷弾とは、ナパーム弾とも言い、中にゼリー状に固めた燃料を含む子爆弾が入っていて、上空数100mで親爆弾が破裂し、雨のように子爆弾や破片が地上に降り注ぐものです。そして町じゅうで火事を起こします。子爆弾に含まれる燃料は油でできているので、水で消火できません。また、破片が突き刺さって亡くなったり、ゼリー状の燃料が人に付着して燃えたりして、水で消すこともできず、命を落とした人もたくさんいたそうです。防空壕に隠れていても、焼夷弾による火災は大量の酸素を奪うので、窒息や一酸化炭素中毒で命を失う人もいたそうです。その子爆弾がバラバラバラっと地面に落ちる音がとても怖かったそうです。因みに、今では焼夷弾は残虐な兵器としてジュネーブ条約によって使用が制限されています。

私の母は空襲の数日後、街に変ないやな匂いがするので、何の匂いかと母の母、つまり私の祖母に聞いたそうです。少し離れた河原で亡くなった人を焼いている匂いだと母に祖母が教えてくれたそうです。

今のウクライナの人々も大切な家族、家や財産、いろいろなものを失った人がたくさんおられると思います。

私が子供のとき、私の上の世代の大人はよくこんなことを言っていました。戦争はあつという間にいろいろなものが奪われる。そんな戦争でも、生きている限り奪われないものがある。それは、何か。それは知識であり考える力です。生きてさえいれば、戦争の後に知識や考える力が復興のための原動力になります。実際に第二次世界大戦後の焼け野原からの日本の復興には、上の世代の人々の知識や考える力が役立ったことと思います。

今は平和な日本もいつ戦争に巻き込まれるかわかりません。私の上の世代から伝えられたこと、つまり、戦争が起こっていろいろなものが奪われても、生きている限り、頭の中のものには奪われないということ。これは、戦争だけに限らず、地震や津波などの災害にも当てはまるのではないかと思います。

皆さん、ぜひ学習することのできるこの高校生時代を無駄に過ごさないでください。

それでは、新型コロナウイルス感染症に気を付けて、元気に新学期を迎えられるように、春休みを有意義に過ごしてください。以上で、終わります。